

秋は私をかえる

夜の審判で「虫の声」の音があつた

その所へ行くと「虫の声」がすかすしいそうだが

虫の多い所は動物も多く「草木もおいしげ、

ていて「人の世界の音」を感じたいから

と言つていた

世界のどこだろう

うっかりして「さすいね」

その元で「この辺では虫の音を

きかぬない「ここに住みはしりたころは

虫の音「さすいね」

「さすいね」もかいていた

炭をどと「さすいね」の音があつた

その中で「さすいね」

「さすいね」の「さすいね」

「さすいね」の「さすいね」

「さすいね」の「さすいね」

ない

「さすいね」の「さすいね」

「さすいね」の「さすいね」

今使していらる物

気がつくとき 手元のものをしれたい

不用のものも処分していらる

それと いろいろの日本 ぶつかし 著のに

と思ふかもしれたい

古い手いぶるも

テ、パールのところのぶつわくしをのり

整理する、小さい物入れも

そう、いろいろの物に、可能性がある

よくゆい、てくおてい、と、なせてやりたい

どうも秋といろのほ、マ、千に、て、こ、ま、う

元氣よく、手、お、て、て、進、ま、う

2022
9/23